



はなさと

第206号
2023/01/01

新しい年を迎えて

施設長 北出 和美

新年あけましておめでとございます。健康やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、はなさとに対しまして、皆様からの暖かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

はなさととは、昨年十月に開設二十五周年を迎えることができました。これもひとえにご利用者様、ご家族様、ボランティア・地域の皆様方のおかげと感謝申し上げます。施設の老朽化はありますが、ご利用して下さる皆様方の笑顔に支えられ、職員一同元気で明るくケアの質の向上を目指し頑張っております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、皆様方には様々なご協力を賜り誠にありがとうございます。収束までにはまだ時間を要するものと思われませんが、引き続き職員一丸となって対策を講じて参りますので、ご協力をお願い致します。

さて、今年の干支は「癸卯（みずのと・うさぎ）」、一つの物事が収まり次に移行していく段階であり、様々な物事の区切りがついて、明るい世界が広がっていくと言われます。はなさとでも、先を見据えながら、地域に貢献できる施設として取り組んで参りたいと考えます。そして、一日も早く、新型コロナウイルス感染症が収束し、面会や諸行事が再開できるようにになり、皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。

これからも皆様のお力、ご協力をいただきながら、信頼にお応えできるよう職員一同努めてまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

柚子湯



12月21～23日の3日間、『柚子湯』を行いました。利用者の皆さんは、柚子を手に取り香りを楽しみ、視覚からも季節を味わっておられました。大好きなお風呂で、更にリラクゼーション時間を過ごされておりました。



松飾り



12月吉日、お正月に向けて、はなさとでは利用者さんと松飾りを行いました。

昔から、飛騨地方ではお正月に松飾りを玄関に飾り、お客様をお迎えする風習があります。



年中緑である松の木には、神様が宿ると言われ、めでたいと言われています。その松に、小判・鯛・当たり矢などの縁起物の飾りをぶら下げ、「千客万来」「商売繁盛」などの願いを込めて新年を祝うようです。松に飾りを付けながら、「昔は家族みんなでかざりつけしたな」「父親が山から松を取ってきて飾ったよ」など昔を懐かしみながら、飾り付けを行いました。みんなで飾った松を吊るすと、「わあ、いいなー」と拍手が上がりました。

花餅作り



今年もコロナ感染予防の為、紙粘土で花餅を作りました。最初は、こんなに難しいことは無理だと思っていた利用者さんも、昔の思い出話をしているうちにいつの間にか手伝ってくれていました。作業しながらのお喋りは、本当に楽しいですね。



新しいメンバー紹介



介護福祉士 浅尾 綾子



12月1日より回復期病棟から勤務異動して来ました、介護福祉士の浅尾綾子です。はなさとの開設当初は各フロアに8名の利用者さまからのスタートで、スタッフも試行錯誤しながらの毎日でした。

それ以来、15年ぶりにはなさとへ来て感じたことは、アットホームな雰囲気、生活の場という暖かい印象を受けました。今後は回復期病棟での経験を糧に利用者さまが安全安心に過ごせるよう、一日でも早く戦力になれるように頑張ります。

発行担当 2階フロア